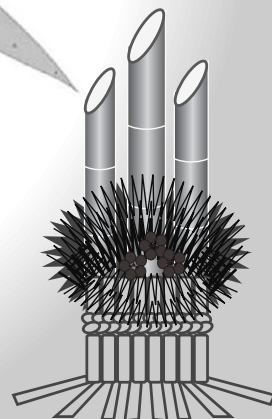
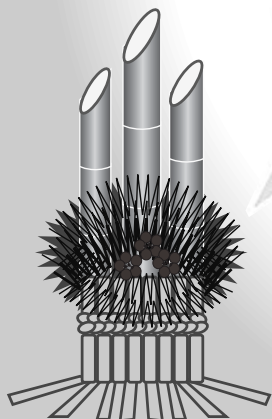
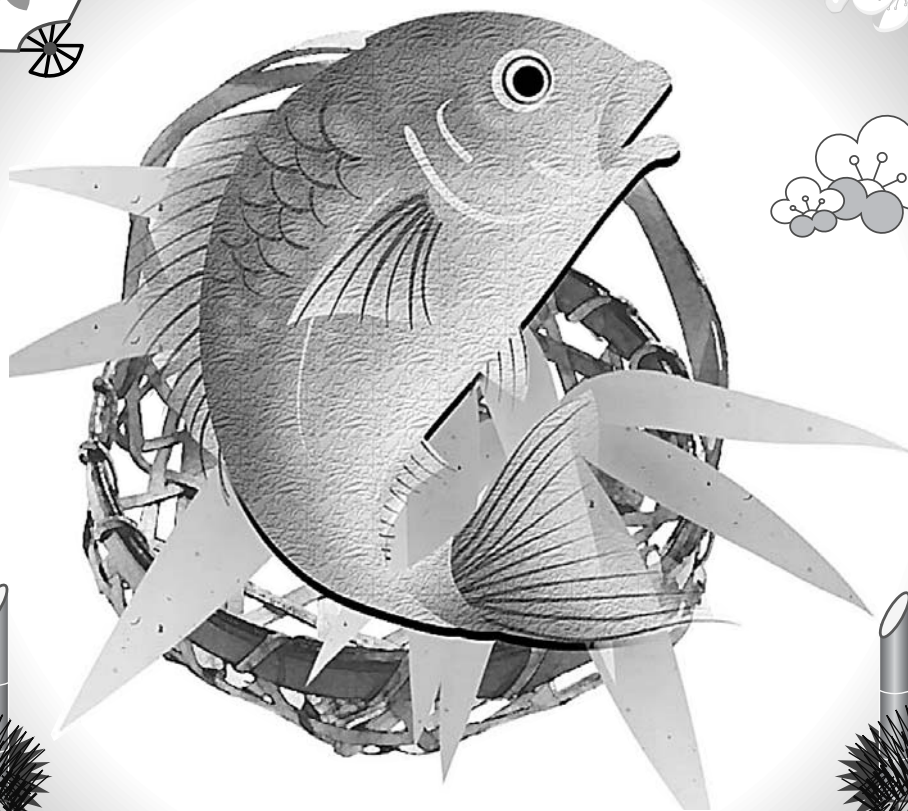
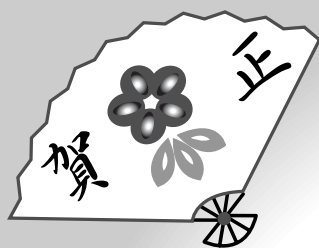


九州兼喜

2010.1

No. 107

謹賀新年



年頭のご挨拶



新年明けましておめでとうございます。

清水建設九州支店の社員の皆様、九州兼喜会の皆様もつつがなく新春をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年9月より自民党から民主党へ政権が変りました。その政治方針は我々建設業に身を置く者にとって、嵐の中へ放り出された状態です。本来兼喜会という団体が政治に口を出す事は好ましい事ではないと考えていましたがこの考え方は間違っていたのではないかとの思いでいっぱいです。「コンクリートから人へ」との鳩山首相の言葉には愕然としました。愕然としたのは私だけだったのでしょか。先の大戦後、この日本の復興及び社会資本の整備に血と汗を流してこられた建設業界の先輩達に非常に失礼だと思えます。日本の高度成長を下支えしてきたのは我々建設業界だと思えます。それをいかにも「コンクリートは悪」のごとき発言は怒りを越えて悲しくなりました。500万人の建設業界、家族を含めると1000万人を越える人々に大きな負を与える政策は納得できません。建設業界の全てを知り「日本の安全・安心」には是非必要な業界で、その業界の疲弊は日本全体の疲弊につながるかの確認で政治的施策をとってもらいたいと思えます。そうなる政治に無関心でなく、建設業界に理解のある政治家を育て応援していく必要があると強く思い始めました。

建設投資が年間50~60兆円規模あれば清水建

九州兼喜会
会長

杉山 秀彦



設の優秀な技術をもってすればその下支えする兼喜会共々に次の世代まで繋げられると思えます。

それでもピーク時80兆円を越える投資規模が50兆円規模でやっていくには大変な事だと思えます。

しかし清水、兼喜がスクラムを組み努力すれば淘汰の波は越えられると考えます。

年末の支店幹部との懇談会の時も寺田支店長、松浦副支店長のお二人から「兼喜会の信頼をなくす様な事はしません。厳しい時代ですが共に努力する姿勢は変えません」とのお話を頂きました。労務主職でもあろうとも「安ければどこでもいい」というゼネコンさんが多い中、常にはっきりと「共生」という言葉で信頼関係を築いてもらっています。どんな時代であろうとも、この信頼関係を壊すことなく「共生」できればと考えます。

我々兼喜会会員は清水建設の信頼を裏切ることなく確実に次世代へ引き継がなくてはなりません。

清水建設九州支店、九州兼喜会の皆様にとって良い年を望むべくもありませんが、希望は捨てずに頑張ろうではありませんか!!





年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

九州兼喜会の皆様におかれましては、気持ちも新たにこの新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。日頃は皆様方に一方ならぬご支援・ご協力を頂き、深く感謝申し上げますとともに、今年も変わらずお付き合い頂きますようお願い申し上げます。

昨年は建設業にとっては大変な年でした。サブプライムローン問題に端を発した金融危機が引き金となり、リーマンショックを生み、その影響で企業の業績悪化が連鎖的に拡大しました。九州においても、製造業の牽引役であった自動車・半導体業界の生産量が上半期に一時半減または半減以下といった状況に見舞われました。補正予算の執行により少し景気が上向き始めたと思われた頃には、自民党が選挙で雪崩を打ったように大敗を喫して、民主党への政権交代が起きました。公共事業の見直しや“コンクリートから人へ”といった誤った認識を世間に与えかねないスローガンがマスコミを賑わせ、またグローバルな金融事情から円高が進み、景気回復に水を差した結果、設備投資額は製造業で前年比40%以上の減少となったわけです。建設業も一時期80兆円を超えていた建設投資額が、今年度予想では50兆円を切るという状況になりそうです。九州支店も受注量の激減は避けられず、おそらく例年より30%以上のダウンになるのではないかと懸念しております。しかしながら、年度末まであと3ヶ月あります。全力を挙げて受注量の確保に努め、兼喜会の皆様の期待に答えられるよう頑張っていく所存です。

安全については、皆様の日々の努力のお陰をもちまして、休業災害1件と例年並みの安全成績を残しております。いつも皆様に申しあげている通り、九州の安全文化の高さと、それを守っている皆様の意識の高さに本当に感謝するとともに敬意を表する次第です。しかしながら、安全に絶対は無いわけで、油断をするといつでも事故は襲ってきます。今年から安全年度が会計年度と同様4月から3月までに変

清水建設(株) 九州支店
執行役員支店長

寺田 修



わるため、21年度はあと3ヶ月間延長されて、15ヶ月間となります。年末を無災害で乗り切って、さらに気を抜くことなく、3ヶ月延びてもやはり九州支店は事故が少ないと再評価されるように努力していきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしく申し上げます。

昨年の世相を表す言葉として「新」という字が選ばれました。政権交代による新政権の誕生やアメリカのオバマ大統領の就任、新型インフルエンザの流行などが理由のようですが、新しいものには生みの苦しみと申しますか、今までと違った事、既成概念といったものを取り払う必要があります。得てして今の状況の方が居心地がいいと保守的になりがちですが、昨今の経済情勢や業界の状況から考えると、新たな取り組みをしないといけないということは衆目の一致するところだと思います。以前、「変わらないものの強化」と「変わるものへの対応」ということを申しあげました。変わるものにいち早く対応し、勝ち残っていかなければならず、そのためには今までのやり方を見直し、新しいやり方を見つけ出していかなければなりません。しかしながら、新しいものといっても今まで培ってきた企業文化に立脚することは変わりません。“より深く”、“より緻密に”、“より執念を持って”、今の業務をしっかりと見据えて、今まで不足していたものを徹底的に洗い出し、体質の改善を図らなければなりません。これは大変大きな痛みを伴うもので、皆様にもいろいろとお願いすることもあるかと思いますが、当社と強い信頼関係で繋がっている兼喜会の皆様と一緒にあれば乗り切っていけると確信しています。

今年は建設業にとって本当に正念場になると思います。皆様と一致団結して、清水グループの結束力の強さを見せていければと切望するとともに、その先頭に立って頑張っていく所存です。

最後になりますが、兼喜会会員各社の社業のご隆盛と、会員の皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。今年もよろしくようお願い申し上げます。

第18回 清水建設全国連合兼喜会 後継者育成研修報告書

九州兼喜会 青年部
北九州支部 (株)清原硝子店 清原 寿雄

平成21年11月19日(木)～20日(金)に東京チサンホテル浜松町に於いて、清水建設全国連合兼喜会第18回後継者育成研修が開催され、九州支部より3名が参加致しました。

初日は、東京兼喜会青年部前橋部長の司会のもと、全国連合兼喜会石井副会長から主旨説明があり、次いで、全国連合兼喜会青木洋次郎会長より、「日本で、1番良いものを作るのが清水建設。それを支えるのが兼喜会、他社には無い大きな“絆”である。しかし兼喜会といっても甘えはダメだ。技術者の誇りをもって、総合力で力を発揮しよう。」との挨拶があり、その後3名の講師の方より講話をいただきました。

まず始めに、建築事業本部現業統括宮崎隆光様より建築生産システム改革活動についての説明があり、フロントローディングによる造りこみ強化。着工前に様々な検討を行うことによる強い現場の実現、中小現場の生産性の向上を目指す。そのためには、職人の知恵を絞り現場とのコミュニケーションを図り、課題・問題点を解決してお互いの信頼を高めていくことが重要である。絆があつてこそその造りに喜びがあるのだ。との講話をいただきました。

次に、調達総合センター所長加藤信夫様より、建築業界にとりまく環境や状況についての講話がありました。コスト面や、経済成長率、建設投資額の低下などの説明があり、興味深い内容に建設工事業者の減少とともに、労働者が年間10万人ずつ減少している中、29歳以下の就労者は、11.9%しかいない。若手を育てないともその造りの担い手がなくなってしまう、ということをも最も懸念されていました。技術の伝承のために、人材の確保と育成は今後の大きな課題であると痛感しました。

最後に、安全環境本部長 白田廣一様より災害

事例についての講話がありました。建築業界では、全産業での1/3を占める430名の死亡災害が起きている。その中の40%が墜落転落災害であり、内、清水建設の21年度の6件(統計では4件)の災害事例はいずれも30代の中堅・ベテランクラスのもの造りの担い手の方々と、胸の痛む思いがする。“危険作業時の相棒がいるか、誰と誰がコンビなのか”を明確にすること。リスクアセスメントを取り入れたKYシートをしっかりと活用してください。環境面についても、社会の目は、現場の副産物の処理の仕方をよく見ているので、適正に処理するようにお願いします。との講話をいただきました。

研修会2日目は、江東区越中島の清水建設技術研究所にて、シミズ・オープン・アカデミーとして2つの講義がありました。まず「地球温暖化時代の建設」について、クールアース推進構想における事務所ビルの省エネルギー技術と効果についての説明があり、エコビルパックや、CO₂の削減の取り組みなどの講義を受けました。次に「コンクリート」についての歴史から要求される性能や施工技術進化の講義があり、コンクリートの特徴として圧縮強度の強さ、施工性のよさや耐久性の説明を受けました。その後、建設技術歴史展示室に移動。鉄骨造建物、コンクリート構造物の歴史と発展、タイル・煉瓦の施工技術の変遷などの資料を見学しました。明治時代から現在の建造物を形作る幅広い技術分野の視点を感じることでできる模型や資料が数多く展示してありました。

今回の研修で、諸先輩方が長い年月をかけて築いた、「お店」と「職方」がお互いを信頼・尊敬しあう良き伝統を継承することが重要だと再認識いたしました。最後に、今回の研修を企画していただき参加する機会を与えていただいたことを心より感謝し厚く御礼申し上げます。



九州兼喜会 青年部
大分支部長

佐藤 清 隆

平成21年10月16日(金曜日)に九州兼喜会青年部は、各支部より30名余りが参加し、秋の研修会を大分県で開催させて頂きました。

今回の現場研修は大分県津久見市の新津久見鉱山再開発工事(第2期)建築工事作業所を見学させて頂きました。

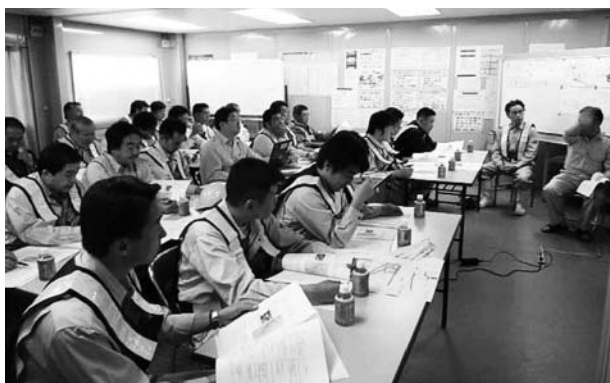
現場見学では、はじめに山口所長のご挨拶を頂きました。引き続き、稲永工事長より工事の概要、既に工事が完了している坑道の掘削工事の説明、現在施工中の工事内容等の説明を細かくして頂き、その後、現場の見学をさせて頂きました。

今回見学させて頂いたこの作業所は、セメントの原料である石灰岩を山頂部分で採掘し、立坑(高さ約140m)へ投入された石灰岩をアゴ部と言われている厚さ50mmの耐磨耗鋼で覆われているシュート部分を滑り台の上を滑らすように経由させ、1次破碎室で石灰岩を砕き、ベルトコンベヤーを通して2次破碎室で更に均等な大きさに砕いて不純物等を取り除いた石灰岩をベルトコンベヤーで坑道の外へ、

そして津久見市街地を通って海岸にある太平洋セメントの工場へ運搬する為の破碎設備(アゴ部、1次破碎室、2次破碎室)及び電気室等の付帯設備を鉱山坑道内の空間内に構築するもので、私たちが通常携わる明かりの現場(青空の下で作業できる現場)とは違い、クレーン等の揚重機作業や資材の搬入車両の大きさも制限される場合が多々あり、施工には非常に苦勞するだろうと、着工以前から言われ、実はこの作業所の工事全体を一括して支部長である私の会社(株佐藤組エレクトリクス)が任されており、工種にとらわれる事無く、「職人の技術と知恵」による見事な仕事ぶりで全工事を無事故・無災害で完工する事が施工部隊をまとめる中の一人である私の使命であり、会社の真価が問われるところであります。

私も青年部の一人として、そして清水建設(株)様の名義人を継承する者として技術力のある腕のいい会社組織の親方を目指して日々研鑽してまいります。

最後になりますが、今回の研修で多大な協力を頂きました作業所の皆様に深く感謝申し上げます。



イングループKANEKI21視察研修

九州兼喜会 青年部 山元 健 蔵

平成21年11月17日、私達、九州兼喜会青年部は、現在実施している改善事例発表会の益々の発展と、発表内容の充実を目的として、イングループKANEKI21の視察に行かせて頂きました。

清水建設株式会社九州支店調達部の田島氏、星野氏、青年部より日高、森、鶴崎、山元の計6名が参加させて頂きました。

大阪のYMCA会館で開催されたイングループKANEKI21は、今年で22回目を迎え、参加者数は約470名と大変盛大に執り行われました。

近畿兼喜会会長の北平様の開会の辞の後、来賓挨拶として、小橋取締役執行役員が御挨拶され、「現在の厳しい状況を生き抜く為に、これからあるべき姿として、品質力、コスト力、人間力を向上させなければ、これからの時代は勝ち残れない。」というお話があり、会場は緊張感と熱気に包まれました。

その張りつめた緊張感の中、各支部・各地区、計8組の発表が始まりました。

今回のイングループKANEKI21は、今までと発表内容を大幅に変え、改善活動中心の発表会から、それぞれの気持ちや、今想う事、考えている事を主張する場という主

旨で行われました。

各支部・各地区共に、熱のこもった発表で、そのどれもが、深く考えさせられる内容でした。「安全帯を100%危険カ所で使用するためには」というような、安全管理を根本から見直すような内容や、「これからの職長・現場指揮者」というような、将来を見据えた人材育成の内容、また、「地球環境について」という、私達の根幹に関わる内容や「求められる名義人とは?」、「お金と工期の話が強調されすぎて、愚痴や溜息が多くなってきている今の雰囲気はどうにかならないものか?」という、今の業界の核心に迫る内容等々、テーマは多岐にわたりました。

私達は、今回のイングループKANEKI21に参加させて頂いて、多くの物を得ることができました。

改めて、改善活動のこと、会社のこと、社員のこと、これからあるべき姿等々見つめ直す事ができたように思います。

この様な、有意義な研修の機会を与えて頂いた、関係者の皆様に感謝申し上げます。

※『イングループ』とは上達・改良・改善・進歩という意味だそうです。



兼喜会理事会、役員会議事録

○役員会

と き	平成21年10月2日(金) 15:00~17:00
と ころ	沖縄ハーバービューホテル
出席者	杉山会長他16名

【議 題】

1. 平成21年度兼喜会、災害防止協議会中間報告書の件
2. 青年部の件
3. その他
4. 各支部の意見

○理事会

と き	平成21年11月2日(月) 13:10~14:30
と ころ	兼喜会事務所
出席者	杉山会長他6名

【議 題】

1. 12月役員会の件
2. その他

○役員会

と き	平成21年12月1日(火) 15:00~17:00
と ころ	ソラリア西鉄ホテル
出席者	杉山会長他18名

【議 題】

1. 12月役員会の件
2. その他
3. 各支部の意見

会員の動向

退 会

○(株)水溜組(大工) (21.12.4)
水溜博志

お 知 ら せ

2009年12月1日より九州兼喜会のホームページが新しくなりました。是非ご覧下さい。

※インターネットにて「九州兼喜会」で検索して下さい。

発行所 福岡市中央区渡辺通3-6-11 福岡フコク生命ビル
清水建設九州支店内 九州兼喜会

印刷所 川本印刷株式会社
TEL 092-431-4091